

福祉みやぎ

CONTENTS (主な内容)

P 2 新年のごあいさつ

P 2 特集
趣味が力に、仕事が生きがい
「仙台にしむら」が支える“働く”かたち
高次脳機能障害がありながらも、自分らしく働く
佐々木さんの物語

P 5 第71回宮城県社会福祉大会を開催しました！

P 6 Heart&Works (ハート&ワークス)
こどもたちの“居場所”と“遊び”を支える地域の拠点
児童館・放課後児童クラブの取組から

P 8 ちいきをつなぐ
大学生が大変身?!
“楽しく学ぶ”を追求する地域の若きヒーロー
「防災レンジャー」の挑戦

P 10 宮城いきいきシニアだより
「ねんりんピック岐阜2025」大会レポート

P 12 県社協掲示板

宮城いきいき学園 令和8年度入学生募集！

宮城いきいき学園では、学びを楽しむシニアの皆さんを募集します。
学習やスポーツ・文化活動を通して仲間とのふれあいを深め、明るく楽しい充実した学園生活をぜひご体験ください。

- 対象＝おおむね55歳以上で、次のいずれかに該当する方
 - ・宮城県内にお住まいの方、または転入予定の方
 - ・宮城県内で地域活動をしている方、または地域活動に参加したいと考えている方
 - ・その他、学園長が受講を認めた方
- 場所＝①仙南校 ②大崎校 ③石巻校 ④気仙沼・本吉校 ⑤登米・栗原校
- 募集人数＝各校30人程度
- 学習日＝年間約20日(2学年制)
- 募集期間＝令和7年12月1日から令和8年3月31日まで
- 入学金＝5,000円
- 受講料＝年間20,000円



詳しくはお問い合わせください

宮城県社会福祉協議会いきがい推進センター
電話 022(225)8477

宮城いきいき学園ホームページは

こちら▶

URL : <https://www.miyagi-sfk.net/participation/318/>



福祉みやぎアンケートへのご協力をありがとうございます。

皆さまからのご回答は、今後の誌面づくりの参考とさせていただきます。
引き続き、福祉みやぎアンケートへのご協力をお願いします。

福祉みやぎアンケート

「福祉みやぎ」に対するご意見・ご感想をお待ちしています。



回答はこちら▶



宮城県福祉人材センター
マスコットキャラクター
「ふくしのほっしー」

宮城県社協のホームページも
ご覧ください

宮城県社会福祉協議会

検索



宮城県内の福祉施設・介護事業者向けの総合補償制度

宮城県地域福祉総合補償制度をご利用ください

ポイント1

社会福祉協議会の会員である社会福祉施設、介護サービス事業者が加入できます。

ポイント2

地元宮城県で加入手続き・事故対応・その他アフターフォローを行いますので安心です。

ポイント3

団体制度のため、有利な団体割引が適用されます。(一部適用外)

お問い合わせ

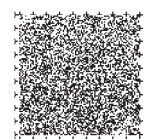
社会福祉法人宮城県社会福祉協議会
(株)オンワードマネジメント

TEL 022-779-7440
TEL 022-762-9915

この制度の各補償は宮城県社会福祉協議会が保険会社と締結した保険約款により行います。



オンワードマネジメントのサイトにリンクします。



音声コードUni-Voice

タイトル クジラに乗って輝く未来へ

作者 下増田児童センターのこどもたち
with 柴田人蜜

新しい児童館への希望を鯨に乗せて未来へ繋げる、こどもたちと宮城在住の美術活動家柴田人蜜によるコラボ作品



この印刷物は、植物性油インキを使用し、環境にやさしい水なし印刷方式を採用しています。



「福祉みやぎ」は宮城県社協のホームページでもご覧になれます。また、ご意見、ご感想、取り上げてほしいテーマなどをお寄せください。表紙の作品も募集しています。





新年のごあいさつ

会長 佐々木 均

令和8年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。皆様におかれましては、日頃より本会の活動に対し、温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

昨年、本会は三団体（宮城県社会福祉協議会・宮城県福祉事業団・宮城いきいき財団）の統合から20周年という節目の年を迎えました。これまでの歩みを支えてくださった県民の皆様、関係機関の皆様、心より感謝申し上げます。

統合以来、「誰もが身近な地域で安心していきいきと暮らせる地域づくり」に取り組んでまいりました。次の10年、20年を見据えて社会の変化に柔軟に対応しながら、引き続き役員員一丸となって取り組んでまいります。

さまざまな困難を抱える方々が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、福祉分野のみの対応ではなく、地域住民が支え合い、多様な分野が連携・協働する地域共生社会の実現が求められております。本会では、宮城県や福祉関係団体等と共に構成する「宮城県地域共生社会推進会議」を中心に、経済・教育などさまざまな分野の関係者と連携しながら、その実現に向けた取組を進めてまいります。

また、地域福祉推進の中核機関として、地域福祉に関する各種事業を実施するとともに、高齢者や障害者（児）の入所施設等も運営しております。今年も、本会の経営理念に掲げる「豊かな福祉社会の実現」に向けて尽力してまいります。

新しい年が皆様にとりまして、幸せあふれる良い年になりますよう、心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

高次脳機能障害と向き合いながら働く日々

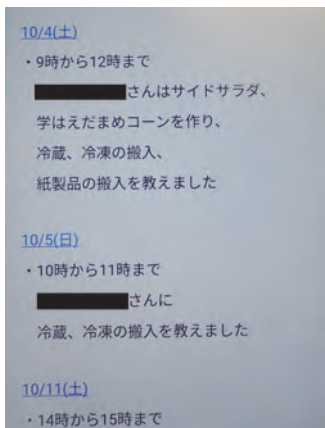
ながらチャレンジジクルーとしてザ・モール長町店で働く佐々木さんと、店長の市川さんにお話を伺いました。

佐々木さんは、週5日、午前9時から午後4時まで勤務しています。清掃する場所を曜日ごとに決めて、開店前の1時間で丁寧な清掃を行います。開店後は、サラダを作る準備やポテトなどの搬入作業を担当しています。

清掃の作業では、お客様が快適に店舗を利用できるよう、目に見えない部分まで丁寧に行っています。市川さんは「佐々木さんの細やかな仕事ぶりや、清掃の基準の高さに助かっています」と語ります。

搬入作業では他のクルーに指導する役割も担っており、身体を交えて言葉で伝えています。高次脳機能障害の特性として記

憶を保持することが難しいため、一日の作業後にはその内容を記録して、忘れないように工夫しています。教えることは「難しい」と話す佐々木さんですが、指導しているクルーが困っている場面などでは、佐々木さんが必要なサポートを行いながら丁寧に指導しています。



▲一日の作業内容の記録

趣味のラーメン店巡りがリハビリに、そして仕事の力に

佐々木さんの趣味はラーメン店巡り。発症前からのラーメン



▲特定非営利活動法人ほっぷの森に掲示しているラーメン日記の写真

好きが、現在もリハビリの一環として生かされています。休日は自転車で片道2時間かけて食べに行くことや、時には新幹線で出掛けることもあります。訪れた店はSNSで「ラーメン日記」として記録しています。

この趣味が仕事にも好影響を与えています。自転車移動で体力がつき、約15kgのポテトが入った箱も軽々と運べるようになりました。日々の積み重ねが、仕事の中でも生かされているのです。

「チャレンジジクルーが得意なことを生かして店舗で活躍できるよう、本人とのコミュニケーションや周囲への共有を意識的に行っています」と語る市川さん。日々の業務の中で、つまずきへの対応にも工夫を重ねています。

得意なことを生かしながら、つまずきを成長の機会に



特集

趣味が力に、仕事が生きがい「仙台にしむら」が支える「働く」かたち

高次脳機能障害がありながらも、自分らしく働く佐々木さんの物語

「誰もが役割を持ち支え合う地域共生社会の実現」に向けて、企業の果たす役割がますます注目されています。株式会社仙台にしむら（以下、「仙台にしむら」



▲左から、仙台にしむらマクドナルド ザ・モール仙台長町店 店長 市川友美さん、チャレンジジクルー 佐々木学さん 特定非営利活動法人ほっぷの森 支援員 及川真由子さん（※取材は286西多賀店）

という。では、障害のある方を含む多様な人材が、それぞれの強みを生かしながら活躍しています。

仙台にしむらは、日本マクドナルド株式会社とフランチャイズ契約を結び、宮城県内で17店舗を経営しています。マクドナルドの店舗で働くアルバイトは「クルー」と呼ばれ、学生、主婦（夫）、シニア、外国人、障害者など、多様な背景を持つ人々が協力し合いながら働いています。障害のあるクルーは「チャレンジジクルー」と呼ばれます。主に調理や清掃、資材の搬入・整理などの業務に従事し、希望に応じて接客や販売にも携わることができます。

今回は、高次脳機能障害による言語や記憶などの障害と向きあい

第71回 宮城県社会福祉大会を開催しました！

令和7年11月6日（木）に仙台サンプラザホールで、「第71回宮城県社会福祉大会」を開催しました。（主催：社会福祉法人宮城県社会福祉協議会、社会福祉法人宮城県共同募金会、宮城県民生委員児童委員協議会、共催：宮城県）

大会には、県内各地から、福祉施設の職員や民生委員・児童委員などの福祉関係者約700人が参加しました。



第一部の式典では、多年にわたり県内の社会福祉の発展に功績のあった方々を表彰しています。



今回から第二部を地域共生フォーラムとして開催しています。オープニングアクトとしてNPO法人音楽のチカラによる演奏、記念講演として「スポーツの持つ力～シャレン！（社会連携）～」という演題で、ベガルタ仙台・市民後援会理事長佐々木知廣氏に講演いただきました。

NPO法人音楽のチカラの皆さんは、障害や様々な理由によってコンサートに行けない方々に生の音楽を安心して楽しめる場を届けたいという思いから、音楽活動を行っています。当日は素晴らしい演奏により、社会福祉の発展に功績のあった表彰者の方々をお祝いしていただきました。

ベガルタ仙台・市民後援会理事長佐々木知廣氏の講演では、スポーツの持つ力として「シャレン（社会連携）」があり、Jリーグクラブには競技以外でも地域社会の課題解決に向けて、地域と一緒に取り組む力があるので是非活用してくださいとの話があり、社会福祉活動を後押しする内容でした。



受賞者一覧

■ 宮城県知事表彰

褒状	社会福祉事業篤志奉仕者	46名
	民生委員・児童委員	(20名)
	共同募金奉仕者	(15名)
	里親	(1名)
	ボランティア等社会福祉奉仕者	(10名)
	社会福祉事業従事者	45名
	民間社会福祉団体関係者	3名
	民間社会福祉団体	5団体

■ 宮城県社会福祉協議会会長表彰

表彰状	民生委員・児童委員功労者	41名
	社会福祉協議会役職員功労者	133名
	社会福祉施設職員功労者	100名
	民間社会福祉団体等役職員功労者	5名
	ボランティア功労者	19名
	ボランティア功労団体	19団体
	優良企業功労者	1団体
感謝状	個人	10名
	団体	1団体

■ 宮城県共同募金会会長表彰

表彰状	篤志寄付者	1名
	募金活動奉仕功労者	379名
	優良地区及び団体等	7団体
感謝状	篤志寄付者	4名
	募金活動奉仕功労者	131名
	従事功労者	2名

■ 宮城県民生委員児童委員協議会会長表彰

表彰状	永年勤続民生委員・児童委員	381名
感謝状	民生委員・児童委員活動支援者	80名



▲就労に関する支援を行う及川さんも交えて、定期的に面談も行います。

「うまくいかないときは、できるようにするまでタイミングや方法を慎重に考えます。すべてをサポートしてしまうと、本人の成功体験にならず、成長にもつながりません。だからこそ、手を離すタイミングや見守る姿勢がとても重要です」と市川さんは話します。

「私たちにもできないことはあ

多様な人材が働くことで育まれる思いやり

市川さんは「多様な人材が働くことで、互いを思いやる気持ちが生まりました」と話します。忙しい時でも「一人一人が最大限のパフォーマンスを発揮している」と理解し合える環境が、店舗の雰囲気や優しく、協力的なものに変えています。「自分も理解してもらえから、相手のことも理解しよう」という気持ちで、働きやすい職場づくりにつながっています。

働くことが人生を前向きに変える力になる

佐々木さんは「右腕が肩の高さまでしか上がらなかった」と、就職当初を振り返ります。現在では、肩より高く腕を上げられるようになっていきます。可動域が広がったことで左肩まで届くようにもなりました。右手でトングを持ち、左手で袋を広げながらパイやサラダを入れる作業も、今ではスムーズにこなせるようになっていきます。

「仕事は、いきがいでいいです」と語る佐々木さん。前述のラーメン店巡りなどの趣味が充実しているからこそ、仕事にも前向きに取り組むことができると思います。働くことは、張り合いのある生活を送るための原動力。趣味と仕事の両立を通して、佐々木さんは自分らしい人生を歩んでいます。

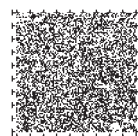
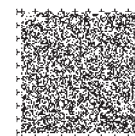
プロフィール 佐々木 学 さん

発症からこれまでの歩み

2019年10月、自宅で娘二人と遊んでいた際に脳梗塞を発症。右片麻痺、全失語、意識障害と診断されました。「発症後3か月間は気持ちが暗く、何を話されてもわからなかった。右手は箸も持てなかった」と当時を振り返ります。

4か月目に出会ったTMS治療（脳に繰り返し磁気を利用して電気刺激を与える治療）をきっかけに、「娘の名前を呼べるようになりたい」と懸命にリハビリを継続。現在は軽い右片麻痺がありますが、身振りを交えた日常会話が可能となり、スマートフォンのメモ機能やメールを活用しながら生活を送っています。

2023年9月から仙台にしむら（マクドナルド ザ・モール長町店）に勤務。趣味はラーメン店巡り。SNSで「ラーメン日記」を更新中で、目標は400店舗の紹介。将来の夢は、ラーメン本を出版すること。





こどもたちの“居場所”と“遊び”を支える地域の拠点

..... 児童館・放課後児童クラブの取組から

かつてこどもたちは、近所の公園や友だちの家で遊ぶことが当たり前でした。今では、共働き世帯の増加や安全面への配慮から、自由な遊び場は減少傾向にあります。だからこそ、地域の中でこどもたちが安心して過ごせる居場所の一つである「児童館」や「放課後児童クラブ」は重要な役割を担っています。

今回は、宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会の齋藤勇介会長にお話を伺いました。



児童館と放課後児童クラブ

児童館は児童福祉法に定められた児童福祉施設の一つで、0歳から18歳未満までのこどもに、つながりを持つて寄り添える唯一の児童厚生施設です。地域の子育て支援事業は乳幼児期、小学校であれば6年間、中学校であれば3年間というように支援が細切れとなりますが、一貫してつながりを持ち、寄り添えることが強みです。また、放課後児童クラブは、保護者が仕事などで昼間家庭にいない小学生を対象に、安心して過ごせる遊びや生活の場を提供し、健全な育成を支える取組です。

宮城県内では、児童館の事業の中に放課後児童クラブを位置づけて、一体的に運営している施設も多くみられます。そのためか、児童館は「小学生を対象とした保育施設」と誤解されることもあります。しかし本来、

児童館は乳幼児期から中高生世代までのこどもの発達に応じた支援を行いながら、地域の子育ての核となり、地域ネットワークの拠点としての役割を担っています。



児童館や放課後児童クラブは「安心して過ごせる居場所」の一つ

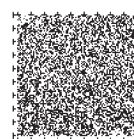
こどもたちは今、学校も5時間・6時間授業が当たり前です。放課後も習い事などで多忙な毎日を通しており、放課後にほっとできる時間が必要です。

放課後のこどもたちは、大人

こどもたちの遊びの重要性

ほっとできる場所があるからこそ、こどもたちは学校で頑張ることが出来ます。児童館や放課後児童クラブは、こどもたちの気持ちや置かれている環境を代弁しながら、地域の大人との橋渡しをする役割を担っています。

齋藤会長は「こどもたちの遊びは、大人の余暇時間の過ごし



▲ピザ作りの様子

方とは異なります。遊びの中で失敗や成功体験を繰り返しながら、学校で学んだ知識や教育を生かして、こども同士の関わりの中で生きる力を身につけていく。これは発達・成長に欠かれないものです」と語ります。

しかし、大人の視点では「遊んでばかり」「もっと勉強を」といった声が出やすく、遊びが軽視される傾向があります。少子高齢化が進む社会では、大人の価値観が反映されやすく、こどもたちの遊びの重要性が見えにくくなっているのかもしれない。

「だからこそ今、遊びの大切さを地域にしっかりと伝え、こどもたちが安心して自由に遊べる環境を整えていくことが大切です」と齋藤会長は話します。



「居場所づくり」という言葉がいらなくなる日まで

「居場所」とは、こども自身が「ここが自分の居場所」と感じるもの。大人が一方的に居場所を提供するだけでは、本当の意味での居場所にはなりません。

齋藤会長は次のように語ります。「児童館はもちろん地域の大人が、こども一人一人の思い

や背景に寄り添い、目の前のこどもたちに必要な環境に思いを馳せて居場所づくりをしていくことが必要です。その中で、たとえ一人のこどもでも『ここが私の居場所だ』と感じてくれるなら、その取組はすごく価値のある活動だと思います」

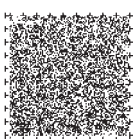
齋藤会長はこうも話します。「児童館や放課後児童クラブの取組を通じて、こどもにとっての居場所や遊びの重要性に思いを馳せた取組が広がることで、『居場所づくり』という言葉が特別なものではなく、地域に根付いた当たり前の活動となる社会にしていきたいです」

こどもたちが居場所だと思えるような環境を目指す視点こそが、様々な居場所づくりを行ってある人たちに求められています。これからは児童館や放課後児童クラブが、地域のこうした取組の拠点となり、こどもの「居場所」と「遊び」を支える活動が広がっていくことを期待しています。

齋藤会長から読者へのメッセージ



児童館は、地域全体をこどもたちのフィールドとして捉え、そのイメージを体現する拠点です。また、こどもたちの居場所として、幅広い世代の子育てやこどもの育ちに寄り添える場所でもあります。困った時や、こどもたちにとっての居場所が必要な時には、ぜひ「児童館」を頭に思い浮かべてほしいです。いつでも気軽に足を運んでみてください。





▲防災レンジャーショーの様子

動への思いを次のように語ります。「災害や防災の話を経験しなく楽しく伝えることで、災害を経験していない子どもたちが、防災に興味を持ち自分ごととして考えるきっかけや防災を知ってもらい入り口になれば嬉しいです」実際に、ショーの時に防災レンジャーの登場に会場の子どもたちが喜んでいる姿や、みんなが防災について考える姿を目にして一体感を感じることができ、防災レンジャーの存在が身近で特別なものになっている実感があるそうです。

子どもたちへ伝える難しさを感じながらも、その都度、メンバーみんなで話し合ったり、練習を重ねており、齋藤さんは「平時からできることや身の回りの当たり前なことを大切にする気持ちを大事にしてほしくて、ショーの最後のセリフで伝えるようにしています」とPASSとしての思いを話してくれました。

PASSは、幼稚園や小・中学校、町内会での防災イベント・訓練、行政の避難訓練等、幅広い分野から依頼を受け、これまでの様々な活動の中で多くの子どもたちと出会ってきました。依頼元との事前打合せの時間を大切に、お互いの伝えたいことや思いを尊重しながら内容を検討しているそうです。子どもたちを対象としています。地域のイベントでは親子で参加してくれることも多く、子どもたちだけではなく家族と一緒に楽しく学べることも魅力の一つです。吉田さんは、「普段の会話の中で、防災や減災についての話題が出るきっかけになることが、活動をしている中で嬉しいこと」と話してくれました。また、毎年継続し

子どもから地域に広がる防災の輪



▲子どもたちの様子

現在、PASSに所属している学生は、東日本大震災当時は小学生以下だったため、記憶はほとんど残っていません。このような世代が防災を伝えるからこそ、自分たちで震災当時のことや防災の大切さ、教訓等を学びながら未来につないでいきます。

地域の子どもたちが防災に関心を持つことは、家庭だけではなく地域全体の防災意識を高めることにもつながります。子どもたちが、防災レンジャー

今後の展望



▲インタビューの様子
左から 池田さん、吉田さん、齋藤さん

て依頼があるイベントや学校もあるそう、今年も楽しみにしていました。等の声をかけていただくこともあり、地域の方々とのつながりも深まっていると感じます」と嬉しそうに話してくれました。

池田さんは「地域での出会いや縁を大切に、様々なイベントや機会を増やしてもっと多くの人たちに自分たちの活動を知ってもらいたいです」と今後の意気込みを語ってくれました。

これからもこのような活動が、子どもたちの学びへとつながり、震災の「教訓の風化」に歯止めをかけ、防災を「自分ごと」として捉える文化が地域全体に広がることを期待します。

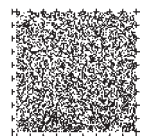


▲〇×クイズの様子

Instagram



ホームページ



ちいきをつなぐ

大学生が大変身?!

“楽しく学ぶ”を追求する地域の若きヒーロー「防災レンジャー」の挑戦

東北福祉大学の学生ボランティアサークルPositive Action Students Supporters（以下「PASS」という。）では、防災・減災をテーマに〇×クイズやレクリエーション、シェイクアウト訓練*など、楽しく学べる参加型の活動を行っています。

今回は、数ある取組の中でもヒーローに扮した学生たちが寸劇やクイズを通して、防災の知識を子どもたちへ伝えるという、独自のスタイルで人気を集めている『防災レンジャー』について、PASS代表の池田美加さん、副代表の吉田風菜さん、齋藤未優さんにお話を伺いました。

*地震が起きた際にまず行うべき3つの安全行動（①まず低く ②頭を守り ③動かない）を習慣づけるための訓練



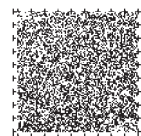
『防災レンジャー』の誕生

東日本大震災をきっかけとして2013年にPASSが設立され、子どもたちに対して親しみを持って防災・減災の知識を伝えたいという思いから、防災とレンジャーを掛けあわせて『防災レンジャー』が誕生しました。

東日本大震災を経験していない世代に「災害の怖さ」や「災害時にどう行動するべきか」を伝えることを目的に活動しています。幼児から小・中学生までを対象に、防災や減災に関するショーと一緒に参加できる体験型イベントを行っています。その活動の中心となっている防災レンジャーショーでは、防災レンジャーと地震や火事などの災害を悪役に見立てた「ディザスターズ」が、防災クイズを通して戦つ寸劇を行い、参加している子どもたちは楽しく防災の知識や大切さを学んでいます。

「楽しい」から「自分ごと」へ

池田さんは、防災レンジャーでの活



宮城いきいきシニアだより



第37回全国健康福祉祭ぎふ大会 ねんりんピック岐阜2025

清流に 輝け ひろがれ 長寿の輪
2025年10月18日(土)～21日(火)



▲一致団結する宮城県選手団

「ねんりんピック岐阜2025」大会レポート

シニア世代の健康と福祉の祭典

「清流に輝けひろがれ長寿の輪」をテーマに、スポーツ・文化・健康・福祉の総合的な祭典「第37回全国健康福祉祭ぎふ大会」（愛称：ねんりんピック岐阜2025）が、令和7年10月18日から21日までの4日間、岐阜県内24市町を舞台に開催されました。

全国から集まった約一万人の選手や多くのボランティアなどが、世代や地域を超えて交流の絆を広げた大会の様子を紹介します。

いざ岐阜へ

10月17日（金）、宮城県選手

宮城県選手団の活躍

宮城県選手団は、複数の種目において上位入賞を果たしました。その一部をご紹介します。

ゴルフ（個人戦 70歳以上）では立石博政さんが、健康マージャン（個人戦 クスノキブロック）では佐藤重良さんが優勝に輝きました。

卓球（団体戦）と、サッカー（Bブロック）は準優勝。水泳では小野寺健男さん（50m・バタフライ・60～64歳・男）、内海誠さん（50m・自由形・75～79歳男）、佐々木書さん（25m・平泳ぎ・85～89歳・男）が第2位、佐々木光子さん（50m・バタフライ・70～74歳・女）が第3位に入賞しました。

また、健康マージャンの畠山ヨシ子さん（87歳）が最高齢者賞を受賞しました。
惜しくも入賞は逃しました



▲準優勝のドリーム宮城（卓球団体戦）



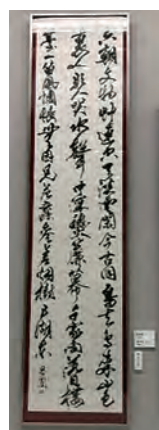
▲優勝の立石さん（ゴルフ）

が、その他の種目に出場した選手たちも、全国の猛者を相手にいきいきとしたプレーを披露し、仲間たちとの交流を楽しんでいました。



▲仙台市選手団（右側）との記念写真

大会終了後は、思い思いに観光を楽しみ、帰途に着きました。選手たちは、ねんりんピックを大変満喫した様子で、心に残る有意義な時間となったようです。



▲「杜牧詩」

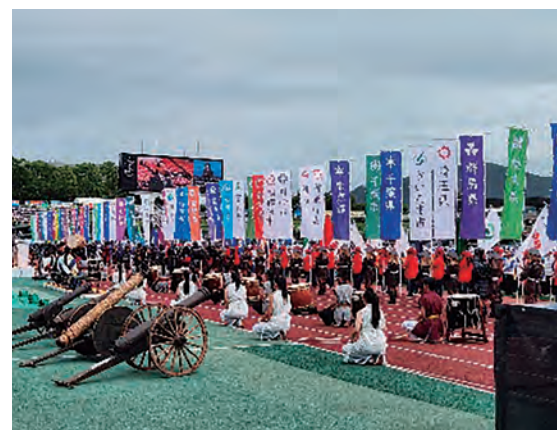
なお、岐阜県美術館・図書館で開かれた美術展では、書部門で菊田昌園さんの作品「杜牧詩」が銀賞（5位）を受賞しました。

団138名は、総合開会式をはじめ、スポーツ交流大会や文化交流大会の16種目に参加するたため出発しました。

仙台駅から新幹線乗り継ぎ、約5時間かけて岐阜県に着。長旅の疲れもありましたが、駅や街中の至るところにねんりんピックの横断幕やポスター、のぼり等が掲げられており、いよいよ始まる大会に気持ちが高まりました。

翌日の総合開会式は、岐阜メモリアルセンター長良川競技場で開催されました。ほら貝の音を合図に徳川家康・石田三成の「いざ出陣」の掛け声が始まった入場行進は、天下分け目の大戦、関ヶ原の戦いをモチーフにした迫力ある演出。

全国から集まった選手団が、一団となって歩を進める姿に、会場内は大いに盛り上がりました。



▲総合開会式の様子



▲足軽隊に続き一斉に入場行進をする様子

ねんりんピック彩の国さいたま2026

来年で38回目を迎えるねんりんピックは、埼玉県を舞台に令和8年11月7日（土）から4日間にわたり開催されます。「咲き誇れ！長寿と笑顔 彩の国」をテーマに、新種目のレクリエーションダンス・空手を含む30種目が行われる予定です。
来年のさいたま大会でも、宮城県選手の皆さんのすてきな笑顔にお会いできることを楽しみにしています！

第38回全国健康福祉祭埼玉大会
ねんりんピック
彩の国さいたま2026
咲き誇れ！長寿と笑顔 彩の国
令和8年11月7日(土)～10日(火)

